

琵琶湖沿岸、西の湖および伊庭内湖における ホンモロコの産卵状況

片岡佳孝

1. 目的

ホンモロコ産卵の状況と産卵期間中の水位変動の影響を把握するために琵琶湖沿岸(2地点)と周辺内湖(2地点)において産卵調査を例年行っている。平成28年度についても同様に調査を行った。

2. 方法

大津市小野、長浜市延勝寺、東近江市伊庭内湖、近江八幡市西の湖の4カ所において、湖岸距離約50m~100mのヨシ・ヤナギ帯で3月から7月まで原則1回/週の頻度でホンモロコの産卵状況を調査した。琵琶湖水位の変動は、琵琶湖河川事務所の琵琶湖水位データを用いた。

3. 結果

産着卵は、4月上旬から6月下旬まで確認された(図1~4)。

産卵期間を通じた各調査地点の産卵数は、大津市小野が約13万粒、伊庭内湖が約68万粒、西の湖が約43万粒、延勝寺約54万粒であった。

調査日における産卵のピークは大津市小野が5月28日、伊庭内湖が6月1日、西の湖が4月28日、長浜市延勝寺が6月10日であった。

産卵期間中の琵琶湖水位は、5月中旬から低下し始め、6月中旬まで下がり続けた。

伊庭内湖では、6月1日に調査期間中最多の産卵数を確認したが、ほとんどの卵が干出した。

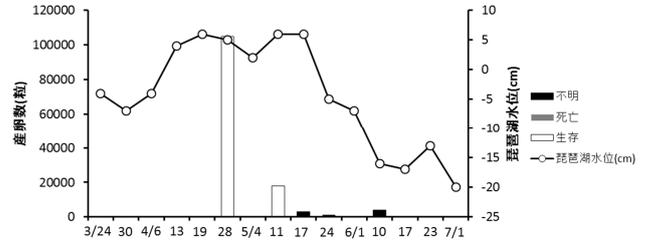


図1 小野における産着卵数の推移

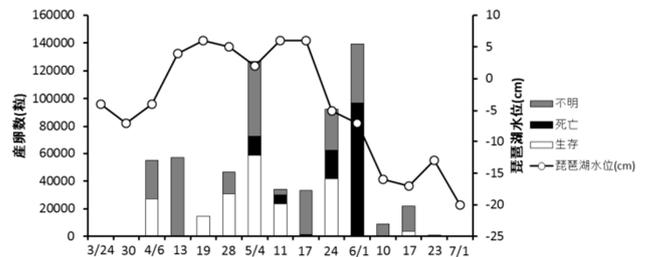


図2 伊庭内湖における産着卵数の推移

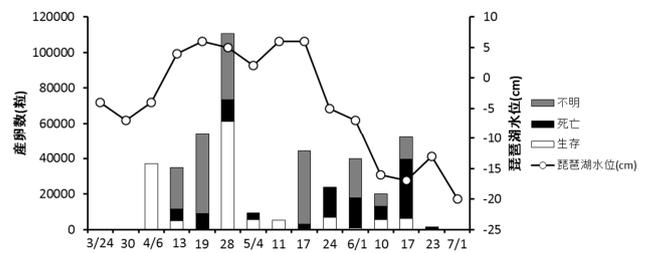


図3 西の湖における産着卵数の推移

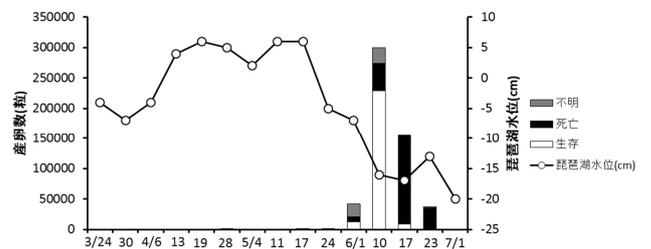


図4 延勝寺における産着卵数の推移